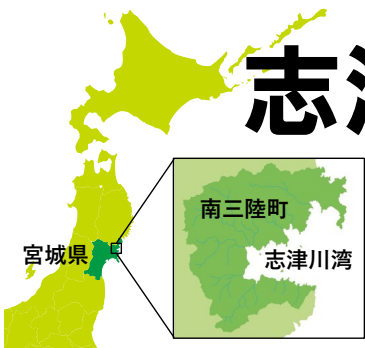


志津川湾ネイチャーポジティブな養殖と まなびの場創出プロジェクト



宮城県漁協志津川支所、一般社団法人サステナビリティセンター、南三陸町

南三陸町志津川湾の概要

- 宮城県南三陸町は、東日本大震災による津波で壊滅的な打撃を受けましたが、震災後、**自然との共存を目指した新たなまちづくり**を進めています。
- 志津川湾には豊かな海藻藻場が広がり、2018年には、藻場の多様性が国際的に高く評価され**ラムサール条約登録湿地**となりました。



プロジェクトの概要

- 志津川湾のカキ養殖場では、施設台数を震災前の1/3まで減らすなど、**環境や地域社会に配慮した養殖へ**と方向転換しました。
(2016年、養殖の国際認証「ASC認証」を日本で初めて取得)
- カキ養殖施設には、まとまった量の海藻類がロープ等に生育しており、その一部は深海底への移送などにより、**ブルーカーボン**としての役割を果たしていると期待されます。
- **海面に新たな海藻藻場を創出**することで、あたかも水中に出現した高層マンションのように、多くの動植物のすみかとして機能しています。

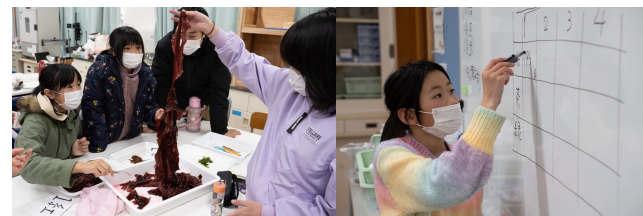


ASC認証を取得したカキ養殖場

ロープに付着した海藻

プロジェクトの特徴・PRポイント

- カキ養殖場の幹ロープ上の海藻に生息する動物相を調査したところ、巻貝や二枚貝、ゴカイ類やヨコエビ類など、55種以上の無脊椎動物が生息しており、**多種多様な葉上動物のすみ場**となっていることがわかりました。
- 近年発達した**環境DNA技術**を用い、**カキ養殖施設内・外の魚類相モニタリング調査**を継続して行っています。その結果、カキ養殖施設周辺において、フサカジカやイソバテングなど、沿岸の藻場に生息する魚種が複数確認されています。
- こうした地域での取り組みを通じて、**ネイチャーポジティブ**と**生物多様性の評価・保全、学びの場**の実現を目指します！



海藻の計測（地元小中学生の参加）



環境DNAによる魚類相調査

動物相の調査

フサカジカ

藻場の魚が検出

イソバテング